

いちのみやの芸術文化



浅井森医院前にて

- 特集「森 林平の相撲部屋」
- [エッセイ] 美術(デザイン)部門の今、昔
一宮美術作家協会/デザイン・工芸部・彫塑部 森 昭 夫
- [活 動] 俳句協会の歩み
一 宮 市 民 俳 句 教 室 坂 井 齊
- これからの催し

2016.3

第36号

一宮市芸術文化協会

「一宮市」には、一宮市博物館・一宮市三岸節子記念美術館・一宮市尾西歴史民俗資料館など先人の残した文化を紹介する施設があります。私たちの「身近な文化」を学んでみませんか？

森林平の相撲部屋

市内の相撲部屋宿舎

一宮市は相撲にゆかりが深い土地です。

現在も大相撲名古屋場所では市内に二つの相撲部屋が宿舎を構えます。この二十八年初場所まで久々の日本出身力士として幕内優勝を果たした琴奨菊らが所属する佐渡ヶ嶽部屋は開明の金剛幼稚園内に、そして荒汐



▲力士像（長誓寺蔵）

部屋は浅井町の西浅井公民館内に構えます（二十七年実績）。夏になると応援する方々の熱が入ります。そして、古くは浅井町に「相撲部屋」とよばれる施設があり、ある時期には力士や有志により「浅井場所」が行われていたのです。現在もこの付近の長誓寺には力士の慰霊碑が残されています。



▲力士慰霊碑（長誓寺蔵）

森林平の相撲部屋

これには浅井膏薬こうやくで名を馳せた森林平もりしんぺいさんが深く関わっています。宝永八年（一七一〇）頃、初代森林平が医薬業を始めるにあたり次のような話が伝わっています。「ある日、浅井のある池（温古井池おんこいしほ）に林平さんが釣りに行くと岸の柳の木の下で鶴が足を折り、鳴いているではありませんか。気の毒に思い柳の枝を折り、添え木として鶴の足を直してやりました。後日、夜半にひとり美人が林平さんを訪れ、足の治療のお礼を述べ、一冊の整骨の秘法書を渡しました。これをもとに研究を重ね、人の役に立つ膏薬『浅井万金膏』を作り、医术を尽くし、人を救うようになりました。」と。万金膏の商標が「鶴の丸」なのはこのためだといわれています。

文化八年（一八一）尾張藩十代藩主徳川齊朝なりともが落馬で負傷したときに四代森林平が治療にあたり、ケガが全快したことから、

▲浅井万金膏の看板



このはり薬は以降、藩主お墨付きの「天下の用薬」として売り出され、その後、藩主お抱えの江戸相撲の五代目境川浪右衛門のケガもこの薬で完治し、大関まで出世したことから一層評判を呼びました。これがきっかけとなり代々の森林平が相撲好きであつ

たことから、力士が負傷したら何をしておも治療し、明治初期には療養に専念できる「相撲部屋」を医院の敷地につくり、完治するまで面倒を見たといえます。また、ケガをした大部分の力士が万金膏を使用して土俵に上がることから「相撲膏」とも呼ばれたそうです。

明治、大正のころになると毎年十月十二日には「相撲部屋」にいる完治に近い力士や東海三県の素人力士が集まり奉納相撲大会が開かれました。名古屋場所などないこの時代、近郷近在からは弁当持参でこの無料相撲を見物しに大勢の人が訪れました。しかし、このいわゆる「浅井場所」も戦争の足音が聞こえてくるに従って中止されたのでした。

現在の森家

その後、森家は同地で平成九年まで森林平製薬を営み、はり薬などを生産し、「いたむところによし」のフレーズとともに浅井の万金膏は全国的に知られたのでした。現



▲浅井森医院（浅井町）

在は、浅井森医院として矢来門や堀がその名残をとどめています。

森家にゆかりの程近い浅井山公園に隣接する西浅井公民館の土俵では、今も毎年名古屋場所に臨む大相撲力士たちがその力を磨いているのです。

（一宮市博物館 学芸員 伊藤和彦）

参考文献 一宮市教育研究会『一宮郷土読本』1956
一宮市浅井町史編纂委員会『一宮市浅井町史』1967
竹内幹彦『浅井万金膏の森林平』一宮市医師会史

1977

美術(デザイン)部門の今、昔

デザイン・工芸・彫塑部門

一宮美術作家協会

デザイン・工芸部 彫塑部

森 昭夫

今、デザイン部で話題になっているのは、二〇二〇年の「東京オリンピック」のエンブレム(標章)が盗作疑惑により再募集になったことである。

現在、一宮美術作家協会のデザイン部の会員は五名で、男子一名、女子四名となっている。作品発表の場は市内が中心で、一宮スポー

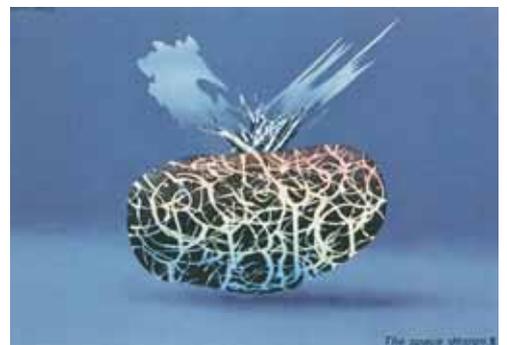
ツ文化センターや一宮市博物館が主な場所である。作品はポスターが主流で、具象画・抽象画で表現され、手描きやコンピューターで制作されている。

一宮美術作家協会が創立されたのは今から約五十年前で、東京で美術作品を発表していた市内在住の人達が、自分の作品を一宮市で展示、発表することによって、若い人達に将来作家として制作して欲しいと願ったからである。

この頃、一宮市は「繊維の街」として知られており、国内や東南アジアに向けて繊維製品やそれに関連した製品のポスターが發送されていた。ポスターは街路の電柱や掲示板に貼られていたが、その作品のほとんどは市外で制作されたものであった。

そういつた中でポスター制作が地元の若者に興味をもたれる様になったのは、前回(一九八四年)の「東京オリンピック」のポスターが中学二年生の美術の教科書に記

載されてからである。作者は日本を代表するグラフィックデザイナーの亀倉雄策氏で、ポスターの中央に「短距離走者がスタートした瞬間」のフルカラー写真が大胆に配置されたものであった。高度経済成長を迎えた六十年代を鮮やかに切り取ったこのポスターは、見ているだけで息をのみ、二十一世紀になっても輝きを失わない作品である。



作品「Space desing.B」1992年(上)
作品「SPACE AND SPACE」2015年(左)

ポスターにはイラスト(挿絵)・カラー(有彩色)・レタリング(文字)・レイアウト(構成)という表現の四原則と言われるものがあるが、現在は変則的なものも多く見られる。昨年度の「一宮市美術展」デザイン部門の出品作品においても、イラストやレタリングのみ作品があった。近年は女性の出産者も多く、女性の社会進出や高齢者社会によりデザインは多様化すると推測される。しかし、デザイン(ポスター)の本質は手描きと表現の四原則であり、そして「伝える」ということは今も昔も変わらないのである。



第67回一宮市美術展デザイン部門解説風景

俳句協会の歩み

俳句部門 一宮市民俳句教室 坂井 斉

「俳句をやりませんか」と知人に誘われ、昭和五十五年頃再び俳句を始めた。と言うのは戦後の昭和二十七八年頃、近くの俳句会で仲間と俳句を詠んでいたからである。

その当時の話で、以前は各地の同好者の集りであった会が昭和十七年より一宮俳句会として始まり、翌年には任意団体の文化連盟として結成されたと言う。その後、戦争の激化で休止。しかし、終戦後の混乱期の二十年十一月には早くも第一回文化祭に俳句大会を開催し、これを基に俳句協会が誕生した。そして二十三年には「尾張文芸」を発刊、二十四年に合同句集「群鳩」を上梓し、代々の指導者によって運用されてきた。

三十七年九月の「一宮市文化団体協議会」発足と同時に俳句協会も加わり、初代に稲垣曾泉氏、その後は伊藤桂仙、辻正一、春日井誠の諸氏によって受け継がれて来たが、それらの人は故人になら

ている。

協会も三十八年に俳句教室を設け、五十七年には「婦人の為の俳句教室」を開き女性の参加が盛んになり、その上、各結社・団体の会も結集し輪が広がったと聞く。

また、二市一町の合併により尾西市の俳句会も平成十九年に新しく設立された「一宮市芸術文化協会」の一員となった。そして岡田波流夫先生を始め、各団体の指導者のもとに尾西方面を主体に活躍し、五月には吟行会、七月には七夕祭協賛俳句大会、十月には一宮市芸術祭に参加し、俳句大会を尾西大会として、十一月の一宮大会と共に年の行事を熟して今日に至っている。

なお、古くは物故者の慰霊祭、また、三代目の旧一宮市文化団体協議会会長で俳句の指導者であった岸政男先生の叙勲などの記録も有り、協会の歴史の一端を垣間見ることが出来る。

私もその俳句教室へ当季雑詠三



岸政男先生叙勲記念祝賀会

句を持って出席。教室ではこれを互選・被講・講評の形で進め、今も毎月第四日曜日(十二月は第三日曜日)の午後、一宮スポーツ文化センターへ出掛けている。と、会場ではすでに参加する皆さんが仲間同志で集って何時もの変わらぬ風景が繰り広げられている。各人はそれぞれの結社・団体に属している方もあり、投句作品には個性豊かなものばかりで選ぶのも楽しい一刻となる。

平成二十七年でも吟行会は五月に尾西地区の担当で新緑の湖東三山の古刹を巡り、百済寺の自然を惜景とした庭を愛で、西明寺では急坂の磴を登り信仰の深さを満喫し、後日の俳句会に備えた。また、

十月には一宮地区の担当で恵那峡のさざ波公園へ出向き、秋の爽やかな大気の中で句を詠み、近くの公民館を借りて発表、その苦心の作品に目を通しそれを楽しんだ。さりながら、この俳句協会も決して安穩ではない。字離れする若い人に如何に楽しんでもらうか、熟年の方々には如何に足を運んでもらうかと思いを馳せ、次の人へとバトン・タッチをする為、今回もまた、作句に選句にと心を費やしている。



教室風景

文化情報



「菜の花」

松岡 彩子

《市および市内公共施設の催し予定》

※一宮市博物館・三岸節子記念美術館
・尾西歴史民俗資料館について

○入館は午後4時30分まで

○月曜休館(月曜日が休日の場合は開館)、休日の翌日休館

一宮市博物館

☎(46)3215

企画展「尾張洋画入門」

日時 ● 5月21日(土)～6月26日(日)

午前9時30分～午後5時

内容 ● 尾張地域ゆかりの洋画家の作品を展示します。

観覧料 ● 一般 200円

高大生 100円

小中生 50円

※市内小中学生・65歳以上無料

三岸節子記念美術館

☎(63)2892

常設展「三岸節子 画家家業」

——好太郎と黄太郎——

日時 ● 3月8日(火)～6月12日(日)

午前9時～午後5時

内容 ● 天才画家と呼ばれた夫・好太郎のエッセンスと、ヨ

ロッパで制作をともした息子・黄太郎に宿るエスプリを節子の作品に探ります。

観覧料 ● 一般 320円

高大生 210円

小中生 110円

※市内小中学生・65歳以上無料

尾西歴史民俗資料館

☎(62)9711

講座「美濃路探訪 春～尾張編」

日時 ● 5月22日(日)

午前9時～午後5時

内容 ● 江戸時代の主要な街道であった美濃路について、歴史と現在の様子を現地学習で学びます。

定員 ● 35名

※要参加費・要申込み。詳しくは広報4月号を参照

市生涯学習課

☎(85)7075

「市民美術教室」

【写真】

日時 ● 5月12日～6月2日の毎週

木曜日

午後1時30分～3時30分

5月15・22日の日曜日

午前10時～正午

【日本画】

日時 ● 6月1日～7月20日の毎週

水曜日

午後1時30分～3時30分

【油絵】

日時 ● 6月2日～7月28日の毎週

木曜日(7月6日は除く)

午後1時～3時

【書】

日時 ● 6月2日～7月28日の毎週

木曜日(7月6日は除く)

午後1時30分～3時30分

【彫塑】

日時 ● 6月29日～8月24日の毎週

水曜日(8月10日は除く)

午後6時30分～8時30分

8月27日の土曜日(予備日

9月3日)

午前9時～午後5時

会場 ● 一宮スポーツ文化センター他

対象 ● 市内在住・在勤・在学

※全コースとも要受講料。また所

定の締切日までに事前の申込が必要。なお日程は予定のため変更する場合あり。詳しくは【写

真】は4月号・【日本画・油絵・書】は5月号・【彫塑】は6月号

の広報を参照



『狂俳月例会』

【問合せ先 一宮狂俳壇連盟】

☎(51)2286

日時▼3月12日(土)・4月9日(土)

5月14日(土)・6月11日(土)

午後1時～

会場▼葉栗公民館

内容▼各自10句持参、互選により

優秀作を記録に残します。

(初心者歓迎)

参加料▼無料

『市民短歌教室』

【問合せ先 真清短歌会】

☎(51)3570

日時▼3月13日(日)・4月10日(日)

6月12日(日) 午後1時～

会場▼一宮スポーツ文化センター

内容▼真清短歌会委員により実作

指導します。(初心者歓迎)

参加料▼無料

申込み▼当日直接会場

『春の市民短歌吟行会』

日時▼5月13日(金) 午前9時～

行先▼大垣城、大垣船町川湊(大垣

市)他

対象▼どなたでも

定員▼35名(定員を超えた場合は

抽選)

参加料▼2,500円(昼食付き)

申込み▼4月18日(月)までに事務局

☎(85)7075へ連絡。

『清聲會定例会』

【問合せ先 一宮漢詩清聲會】

☎(78)7953

日時▼3月26日(土)・4月23日(土)

5月28日(土) 午前10時～

会場▼中央図書館

内容▼漢詩文の基本的な読み方を

はじめ、作者の時代背景に

も触れながら初めてのの方に

も分かりやすく「唐詩三百

首」を解説します。(初心者

歓迎)

講師▼三島徹氏(東洋文化振興会

会長)

参加料▼月2,000円

申込み▼当日直接会場

『市民俳句教室』

【問合せ先 一宮市民俳句教室】

☎(73)5504

日時▼3月27日(日)・4月24日(日)

5月22日(日) 午後1時～

会場▼一宮スポーツ文化センター

内容▼当季雑詠3句を一宮市民俳

句教室委員が指導します。

(初心者歓迎)

参加料▼無料

申込み▼当日直接会場

『春の市民俳句吟行会』

日時▼5月17日(火) 午前9時～

行先▼氣比神宮(敦賀市)他

対象▼どなたでも

定員▼37名(定員を超えた場合は

抽選)

参加料▼2,500円(昼食付き)

申込み▼4月22日(金)までに事務局

☎(85)7075へ連絡

『市民川柳教室』

【問合せ先 一宮川柳社】

☎(45)6951

日時▼3月27日(日)・4月24日(日)

5月22日(日) 午後1時～

会場▼一宮スポーツ文化センター

内容▼自由吟および課題吟を一宮

川柳社委員が指導します。

(初心者歓迎)

参加料▼無料

申込み▼当日直接会場

『清聲會作詩教室』

【問合せ先 一宮漢詩清聲會】

☎(78)7953

日時▼4月5日(火)・5月10日(火)

6月7日(火) 午前10時～

会場▼中央図書館

内容▼漢詩文の作り方の指導をは

じめ、持ち寄った創作詩の

添削の検討を会員間で行い

ます。(初心者歓迎)

参加料▼年3,000円

申込み▼当日直接会場

『石刀まつり』

【問合せ先 一宮民俗芸能連盟】

☎(73)5221

日程▼4月24日(日)

会場▼石刀神社(今伊勢町馬寄)

内容▼山車からくり・献馬

『春季謡曲大会』

【問合せ先 一宮謡曲同好会】

☎(62)0966

日時▼4月24日(日)午前9時30分〜

会場▼産業体育館

内容▼素謡、連吟、仕舞等の発表

入場料▼無料

『サロンコンサート』

【問合せ先 一宮音楽家協会】

☎(87)2827

日時▼5月8日(日) 午前11時〜

会場▼一宮スポーツ文化センター

内容▼会員による演奏会。曲目は

ピアノ連弾によるベートー

ヴェン「運命」より第2楽

章、声楽で中田喜直による

「おかあやこ」など。

入場料▼無料

『2016 一宮総合美術展』

【問合せ先 生涯学習課】

☎(85)7075

日時▼6月9日(木)〜12日(日)

午前10時〜午後5時(12日

は午後4時30分まで)

会場▼一宮スポーツ文化センター

内容▼加入団体から選抜された作

家の日本画・洋画・彫刻立

体・工芸・デザイン・書・
写真の作品を展示します。
入場料▼無料

『尾西ウィンドオーケストラ 第78回定期演奏会』

【問合せ先 尾西ウィンドオーケ
ストラ】

☎(76)1161

日時▼6月12日(日) 午後2時〜

(開場は30分前)

会場▼尾西市民会館

内容▼会員による演奏会。岩井直

溥氏を偲び、アレンジ曲の

数々をお届けします。

入場料▼一般1,000円

中学生以下無料(要整理

券)

『加入団体の催し』欄に 情報を掲載しませんか？

このコーナーでは一宮市芸術文化協会
加入団体の活動情報を募集します。
掲載を希望される団体は、発行月3・
6・9・12月の前々月15日までに、
下記の必要事項を任意の様式にて記入
の上、事務局まで提出してください。

必要事項

- ①行事名
- ②団体名
- ③問合せ先電話番号
- ④日時
- ⑤会場
- ⑥対象
- ⑦参加料
- ⑧申込方法
- ⑨その他必要事項

提出先

〒491-8501

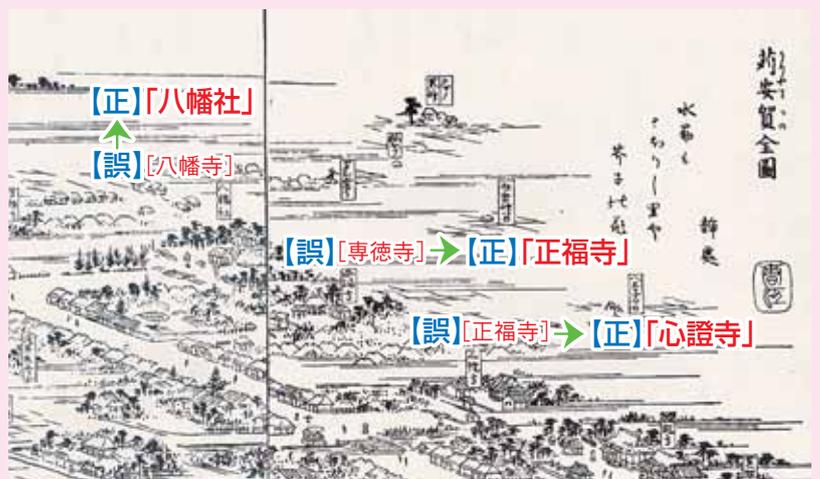
一宮市芸術文化協会事務局(住所不要)

または FAX 0586-73-9213

おわびと訂正

「いちのみやの芸術文化第35号(平成27年12月)」の特
集に一部誤りがありましたのでお詫びして、下記のとおり
訂正させていただきます。

※3頁【描かれた古城(「苅安賀全図」尾張名所図会
後編巻一)】部分



この「いちのみやの芸術文化」は、
今年度の編集委員八名により、編集
されています。

【編集委員】 ※順不同・敬称略

浅井 英仁・木全 修

小島 祥子・後藤富士雄

坂井 齊・増田 和臣

横井 静嘉・柳原田主子

【題 字】武 山 翠 屋
【編集・発行】一宮市芸術文化協会

【連絡先】一宮市芸術文化協会事務局(市教育委員会生涯学習課内)
〒491-8501 愛知県一宮市本町2丁目5番6号
TEL 0586-85-7075 / FAX 0586-73-9213